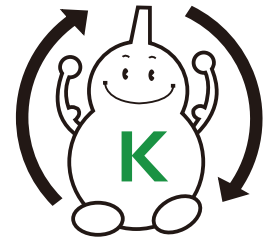


ごみジャーナル

No.50

発行／ごみ問題を考える草津市民会議

編集／広報委員会



クルリーナちゃん
(ごみ問題のキャラクター)

地域の環境美化活動

市内各地では様々な環境美化活動に取り組まれています。その中から、玉川学区と老上学区の取組について紹介します。地域の環境美化が進むことを期待しています。

遺跡と萩の育むまち野路の玉川
～玉川学区の取組～



花いっぱい運動
(コリア)

萩の花

令和元年秋からスタートした「花いっぱい運動」。季節の花を各町内会に配り、花の手入れを通して協働によるまちづくりの推進を図っています。

令和2年は萩の里にふさわしく、一年かけて約250本の萩の苗木を植えました。玉川まちづくりセンターに、萩によるトンネルを作り、2～3年後には立派なトンネルの完成を期待しています。

この活動を通じ、以前にも増して周囲が輝いているように感じています。出会いと発見、喜びと楽しみにあふれ、人の交流やふれあいが活力を生むことで、住民提案型のまちづくりに発展することを願っています。玉川学区はSDGsを常に意識し持続可能な社会へとつなげる意気込みを持っています。

※SDGsとは、国際社会全体の17の目標と169のターゲットで構成される「誰一人取り残さない」を理念とした共通目標。

老上環境美化活動
～老上学区の取組～



軽トラ3台分の落ち葉にビックリ!

南草津駅西側(駅南線)歩道には、約220本のケヤキが植栽され、四季折々の風景を楽しむ事ができますが、紅葉後は大量の落ち葉が歩道にあふれています。令和2年は学区住民で清掃活動を行いました。

老上まちづくりセンターからごみを拾いながら南草津駅前をめざします。ケヤキ通りでは、駅前地域からの参加者と合流。大量の落ち葉に驚かされながら掃き集めました。1時間半もすると用意したごみ袋は落ち葉で満杯に。

大勢の方にご参加いただき、久々に共に汗を流した清々しい活動となりました。

実施日：令和2年11月21日(土)

参加人数：64名

共催：老上学区まちづくり協議会、
老上学区ボランティア連絡協議会



ごみ問題を考えるセミナー

令和2年10月30日開催



講演1

フードバンク・ フードドライブ事業について

講師：社会福祉法人 草津市社会福祉協議会

フードバンクとは、食品関係の企業において包装の印字ミスなどで販売できなくなった食品や家庭で余った食品などの寄附を受け、食糧支援を必要とする家庭や福祉施設などに無償で提供する社会福祉活動およびその活動を行う団体のことをいいます。

草津市社会福祉協議会では、食品ロス削減と善意の循環システム構築を目的にフードバンク事業を実施されています。

食品の寄附の受付は、草津市社会福祉協議会の窓口で行っていただけます。

「もったいない」を「ありがとう」に変えることができる取組をもっと広めていきたいです。

※寄附できる食品は、賞味期限が3か月以上あり未開封、新品のもので常温で保存可能なもの。



講演2

コロナ禍のプラスチック 大量消費社会をどう生きる

講師：京都市ごみ減量推進会議 堀 孝弘 氏

2015年に海洋プラスチックごみ問題に世界が注目し、2018年からプラスチックごみ輸出問題が表面化されました。また世界の海には5兆個のプラスチックごみが漂流していると言われ、海鳥やウミガメ、魚がプラスチックごみを誤飲するなど被害を受けています。そして、今年はコロナ禍の影響によりプラスチックごみは更に増加の一途をたどっています。

便利なプラスチックは暮らしを豊かにしてくれたものの、プラスチックごみが世界中の海洋に流出してしまい、いよいよプラスチックとの付き合い方を考え直す時が来たのだと考えます。

不要なプラスチック利用を減らし、脱使い捨て、脱プラスチックを意識し、今こそ3Rをベースにした社会への転換をすべきではないでしょうか。

私たちが出来ることは、使い捨てプラスチックは買わない・貰わない、マイバッグ・マイボトルの持参などを推奨していくことです。この日々の小さなアクションの積み重ねが大きな一歩となることを信じて。



“プラスチックごみ”に関する啓発本
海と地球を蘇らせる プラスチック「革命」(日経BP)



プラスチックごみ (ペットボトル) について考える

キーワード ①ワンウェイプラスチック ②量り売り

令和2年9月26日、環境文化フォーラム主催の講演会へ参加しました。

草津市のペットボトルの処理について話がありました。令和元年度のペットボトル収集量は平成30年度から8t増加し301tとなっています。令和2年度には全国的な巣ごもり現象に起因して、更なる増加が予想されています。

続いて「ペットボトルの利用について環境文化から考える」をテーマに参加者討論が行われました。

「環境省のプラスチック資源循環戦略の基本原則の1つ、一度きりの利用で役目を終えるワ

ンウェイプラスチックの削減の話」と「日本の詰め替え比率は世界でも高いレベルにあるという話」がありました。また、関東のコンビニでは、洗剤の量り売りが開始され、容器を持参することで必要な量だけを購入できる、画期的な取組の紹介がありました。

社会全体で不要なペットボトルの使用が減少する仕組みづくりを進めるとともに、私たちにできることは、マイボトルの使用や詰め替え商品の利用、ごみの分別を徹底していくことだと思います。





生ごみ減量の取組



食品ロスを減らそう!!

○食品ロスとは？

最近食品ロスという言葉が新聞やテレビで見かけますが、その意味をご存知でしょうか？

食品ロスとは、「まだ食べられるのに、捨てられる食品」のことを言います。例えば、次のようなものが、食品ロスです。

- 1 食べ残し…家庭やレストランで、食べきれずに余らせた料理や食品
- 2 過剰除去…野菜や果物の皮を食べられる部分まで厚剥きすることや肉の脂身を切り落とすこと
- 3 手つかず食品…食べないまま期限切れ等で捨ててしまう食品

○食品ロスを減らすには？（買い物編）

- 1 必要な食材を必要な量だけ…必要以上に食材を買ってしまったり、まだ家に残っている食材を間違えて買ってしまうことはないでしょうか？使いきれずに期限が過ぎてしまうなんてもったいない！

- 2 消費期限と賞味期限…言葉は似ていますが、全く別のものです。それぞれの意味を理解して、上手に買い物をしましょう！

消費期限：これを過ぎたら食べない方がよい期限

賞味期限：おいしく食べることができる期限



段ボールコンポスト堆肥を作ろう!!

生ごみの減量と、堆肥ができる一石二鳥の段ボールコンポストを紹介します。段ボール箱を利用した生ごみ処理容器で、段ボール箱に土壤改良材を入れ、微生物の力によって生ごみを分解し、堆肥が作れます。段ボールコンポストを気軽に組み立ていただけるよう、基材セットを1セット 500円で事務局（草津市くさつエコスタイルプラザ）にて販売しています。



ます。



詳しい内容はQRコードより市ホームページにてご確認ください。



↑昨年、部会員が堆肥を使って育てたトマトです。見事に育ちました。



(段ボールコンポスト部会)

市内散在性ごみ一斉清掃

今年も各町内会や各種団体のご協力のもと、令和2年11月29日を中心に市内散在性ごみ一斉清掃を実施しました。市内14か所の小学校に設けた回収拠点にごみが集められ、ごみの総量は2,700kg



清掃活動をする矢橋町のみなさん

になりました。ご協力ありがとうございました。

この取組はまちの美化に寄与するだけでなく、参加者同士のふれあいを生みます。「まちがきれいですね!」と言われると本当にうれしくなります。みなさんでより一層きれいなまちにしていきましょう。



令和2年度 環境省地域環境美化功績者表彰・秋の緑綬褒章

昨年7月に草津市内で地域の環境美化・清掃活動等のボランティアに取り組まれている「草津ほほえみの会」会長の中村登美子さんが、環境省地域環境美化功績者表彰を受賞されました。環境省地域環境美化功績者表彰は、環境省が環境保全、環境美化に関し、顕著な功績があった方や団体に対し授与される賞で、草津市長から伝達が行われました。



地域環境美化功績者表彰は環境大臣から（草津市長から伝達）



緑綬褒章は内閣総理大臣から（滋賀県知事から伝達）

※それぞれ環境大臣、内閣総理大臣から表彰の予定でしたが、新型コロナウイルス感染症拡大の影響で、地域環境美化功績者表彰は市長から、緑綬褒章は県知事から伝達があったものです。

また、11月には、「草津ほほえみの会」が団体として、秋の緑綬褒章を受章されました。緑綬褒章は長年にわたりボランティア活動に従事し、顕著な功績をあげた方や団体に授与される賞で、滋賀県知事から伝達が行われました。



「自分たちのまちは、自分たちできれいにしよう」と声を掛け合い、前身の団体を平成4年に発足させて以来、市道草津駅下笠線を中心に散在性ごみの収集、除草作業、街路樹への植栽など、地域の環境美化に取り組んでこられた功績が大きく評価されたものです。

（草津市資源循環推進課）

南笠東学区合同フェスタで啓発活動

令和2年10月24日、南笠東学区合同フェスタにブース出展を行いました。

多くの来訪者に立ち寄ってもらい、ごみの分別や食品ロスのクイズとパネルを通じて、ごみの減量について楽しく学んでいただける機会となりました。

啓発の場を設けていただき、大変嬉しく思います。これからも、ごみ問題に関する啓発に取り組んでいきたいと思ひます。



事務局

ごみジャーナル第50号についてのご意見、ご感想をお気軽に左記までお寄せください。
〒525-0043
草津市馬場町1200番地25
草津市役所くさつエコスタイルプラザ内
「ごみ問題を考える草津市民会議」広報委員会
TEL (077) 561-6580
FAX (077) 561-6583
E-mail: ecostyle@city.kusatsu.lg.jp
【広報委員】
・松村 幸子・山本 正行・木村 兼久・油布 輝義
・音掬 宏勝・清水 節子・富山 康夫・林 和臣
・山口 尚孝・山本 清治

編集後記

ごみジャーナルも今号で50号となりました。創刊より約30年間、一貫して伝えてきたのはごみの減量と資源化促進によって、私たちの生活を循環型ライフスタイルに転換するための意識改革を促すものでした。

「混ぜればごみ、分ければ資源」を合言葉に、多種類の分別に取り組みました。「草津市の分別は煩わしい」との声を聴くこともありましたが、今では分別は当たり前になっています。また、レジ袋削減のため、「マイバッグ」を配布し、持参運動を展開したことは、昨今の「プラスチック問題対策」を先取りするものです。生ごみの削減には「段ボールコンポスト」が手軽だと普及推進していますが、食品ロス削減の意識にもつながり、各家庭に浸透すれば「食品ロス対策」の一部を担うことになるでしょう。

ごみ問題は、人が生活するうえで切り離せない永遠の課題であり、継続して取り組むべきものですが、「ごみ問題を考える草津市民会議」の活動はくらしの豊かさを追求するものであり、その活動の楽しさを伝えることも、ごみジャーナルの使命ではないかと思ひます。